報告者名・所属	中島小乃美 研究員・佛教大学保健医療技術学部
概要 (会名、開催地また は開催形態、開催日、 主催者等)	佛教大学総合研究所共同研究 常設研究「南丹市の地域社会と 佛教大学の地域連携活動に関する研究」第7回Zoom報告会 Zoom開催 2022年3月29日
URL	https://www.bukkyo-u.ac.jp/labo/activity/project/kondo.html

# 美山町をフィールドにした 「ふれあい実習」における看 護学生の学び

2022/03/29 看護学科 中島小乃美

# 本日の内容

- 看護学科ふれあい実習の概要
- アンケート結果の報告
- ・まとめ



### ふれあい実習の授業概要

**授業のテーマ**:地域における生活者を知るとともに、自己のコミュニケーションを客観的に振り返る **授業の概要**:

- 地域の人々との交流を通して、人々の日常生活の基盤となる価値観や考え方に触れることにより、 生活者の視点に立つことの意味を体験的に学習する(入門ゼミ1・2と連動させて実施する)。また、 自己のコミュニケーションを客観的に振り返る機会とする。
- 8~9人の小グループで協力しながら、事前学習、地域での実習、事後学習を行う。
- 事前学習では、実習での自己課題を設定するとともに、グループ内のメンバーの課題も理解しておくことと、美山町に関する情報収集および整理を行う。
- 現地での実習では、美山町に身を置くことによって、地域社会の現状を把握し、地域の人々との交流する。地域の人々との交流の中で、看護技術演習や臨地実習での基盤となる「観察」「傾聴」 「記録」を体験する。
- 事後学習では、個別に収集した情報や体験内容をグループ内で分かち合い、まとめて、全員で学びの共有を行う。その際、看護の対象になり得る人と接することを通して地域社会のあり方や、地域 医療上のさまざまな問題について考えるきっかけとするとともに、地域で見聞したことが地域医療 や看護とどのように結びつくかを考え話し合う。

## 授業日程

第1回 オリエンテーション、美山町での実習内容の説明 第2回 施設実習、サロン実習に関するグループでの事前学習 第3回 「美山の生活について」(ゲストスピーカー)、事前学 習準備

第4~7回 美山町での実習(1日目)

第8回 実習1日目のまとめと振り返り、2日目の準備

第9~12回 美山町での実習(2日目)

第13回 実習2日目のまとめと振り返り

第14~15回 美山町での学びの全体発表会

## 美山町での活動

- •1回目午前 美山支所長より「美山の高齢者の状況と医療について」
- 2回目午前 かやぶきの里の見学
- 1、2回目午後 地区活動 とおたサロン、洞志会、熊壁楽しむ農場、岩江戸いきいきサロン、悠 (ゆう) サロン、美の里笑話サロン、サロンつながり、すずらん
- 1、2回目午後 施設活動
  - 生活支援総合センター 美山こぶしの里
  - 高齢者総合福祉施設 美山やすらぎホーム
  - 障害支援施設 美山育成苑
  - 美山診療所

### アンケート調査の実施状況

- 2016年度入学生…コロナウイルス感染症のため、卒業式が中止となり、卒業式の荷物の中に返信用封筒と共に挿入し、返信を依頼した
  - →回収率が低い <mark>8/66名</mark>

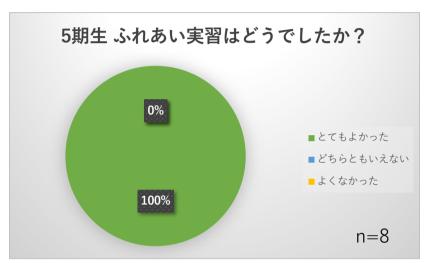
全ての実習が終了している

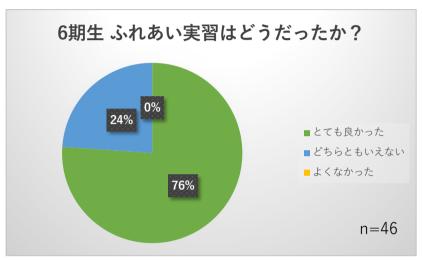
- 2017年度入学生…3年生2月、ゼミ決定時に直接依頼 46/59名 基礎実習Ⅰ、基礎実習Ⅱ、成人看護学実習(急性期・慢性期)、老年看護学実 習を終えている
- 2018年度入学生…3年生春学期ガイダンス時に直接依頼 26/60名 基礎実習Ⅰ、基礎実習Ⅱを終えている

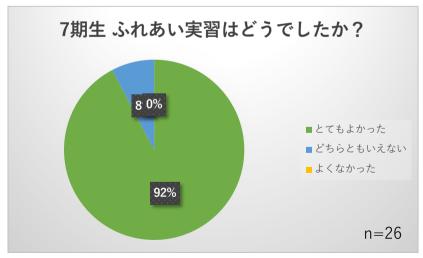
## アンケート内容

- 1. 学年
- 2. 美山の「ふれあい実習」はいかがでしたか?該当するところに○をつけて、その理由をお答えください。
- 3. 「ふれあい実習」は1年時の春学期に行われましたが、時期は適当でしたか?
- 4. 適当ではないとお答えした方にお尋ねします。それでは、適当な学年と 学期はいつですか?その理由もお聞かせください。
- 5. 施設とサロンの実習を行いましたが、どのようなことが印象に残っていますか?
- 6. 実習での経験は、その後の学習や実習に影響がありましたか?あったとしたら、どのような影響でしたか?
- 7. 「ふれあい実習」が医療者を志すあなたに影響を与えましたか?影響があった場合、それはどのようなものですか?
- 8. 美山町以外(例えば京都市内の施設など)で「ふれあい実習」を行ったら、同じ経験が得られたと思いますか?その理由もお聞かせください。

#### Q2.美山の「ふれあい実習」はいかがでしたか?







### とてもよかった

- 普段、美山町と比較すると都会に住んでいるので、世代の異なる人と交流する機会は本当に少ない。本格的な看護の実習が始まる前にふれあうことで、高齢者とのコミュニケーション方法、生活史を知るということを深く考えるよことができたように思う。
- 高齢者の方とのコミュニケーションの取り方や認知症について 知るきっかけとなった。
- グループをつくって計画を立てたり、集まって話し合ったりするのが、授業でのグループワークの練習にもなってよかった。
- グループメンバーとも仲良くなれ、その後の学生生活でも支え合うことができたのでよかった。

### どちらともいえない

- 高齢者と話す機会があるのは良かったが、その後の経験が実習に役立つ場面がなかったため。
- 1年の春学期にふれあい実習があったことは良かったと思う。でも何を 学ぶのか目的は理解していなかったため、楽しい遠足感覚で終わった。
- •1回で十分だった。
- 地域に暮らす方の様子を拝見することができたが、入学したばっかりで その意味というものを理解できていなかったように思います。
- 美山に住んでおられる高齢者がどのような生活をしているのかということを知るきっかけになった。その際には、グループ内でコミュニケーションをとるが、他のグループとの交流が少なかったで、「とてもいい」という評価はできないが65点ぐらいのどちらとも言えないである。

### Q2から見えてきたこと

#### 効果的であった

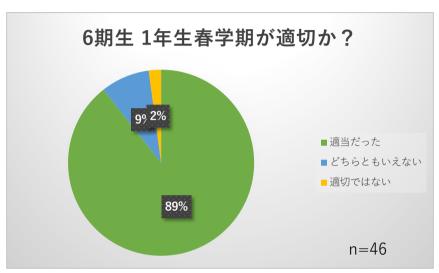
- 世代の異なる対象者との接し方
- 地域で暮らす元気な高齢者を知る
- 自己のコミュニケーション課題 の自覚
- ・認知症高齢者と接する経験
- 友達作りになった
- グループワークの方法、メンバー間の協力の効果を知る

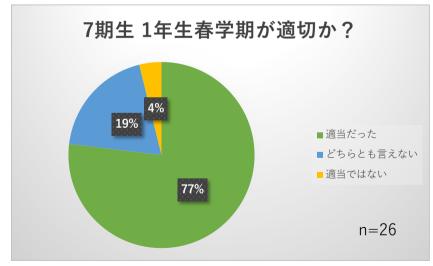
あまり効果的でなかった

- 実習目標の不理解と自覚の欠如
- 経験を活かすことができたという実感の不足

### Q3.1年時の春学期の実施は適当だったか?







### 適切ではない

#### 適切な時期

- 2年生 秋学期
  - 地域の様子を実際に見て、保健師とかの選択肢も考えられるのかと思います。
- 1年生 秋学期
  - 仲良くなってからの方がいい

### Q5. 施設、サロンの実習で印象に残っていること

#### 【施設】

- グループホームへ行き、レクリエーションをおこなったこと。認知症のある方とのコミュニケーションを学び、どのような説明方法、話し方をすればよいか、失礼にあたらないかを考えたこと。昔の生活など、詳しく話してくださったことが印象に残っている。
- 障害をもった人が施設でどのように暮らしているのか知れた。
- 施設に行った時に障害者の方々が手をにぎって案内してくれたり、一緒に ゲームをして交流したことが印象に残っている。
- 初めて認知症の方とお話しし、認知症の方とのコミュニケーションの難し さを感じた。
- 初めて特別養護老人ホームに行って、どんなところか知ることができた。 自分達がしたレクリエーションで、利用者さんたちが楽しんでくださって とても嬉しかった。手をぎゅっと握って、「また来てね」と言ってもらえ たことも嬉しかった。

#### 【サロン】

- 一人ひとりが自分の役割を持って生き生きと暮らしていること。 自分の生活に誇りを持っていた。
- 地域の活動に参加して楽しんでいる高齢者の姿を見られたこと。
- 健康的な高齢者の生活風景を見ることができた。
- ・元気な高齢者がゲームを行うだけでなく、その場に車で近隣の人と一緒に来たり、高齢者同士コミュニケーションを多くとっていたり、食材の譲渡もあり、仲が深いと感じた。
- 私が思ったよりも元気な人が多く、自分たちで管理や運営を行なっておられる印象だった。レクリエーションをもう少し盛り上がるものにしても良かったと思った。美山についていろいろなことを教えて下さった姿がとても印象的だった。

### Q5から見えてきたこと

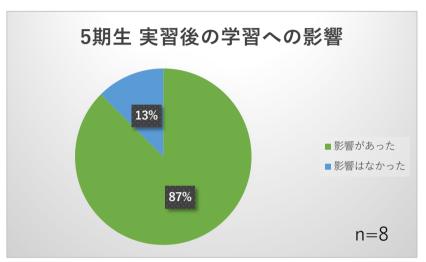
#### 施設

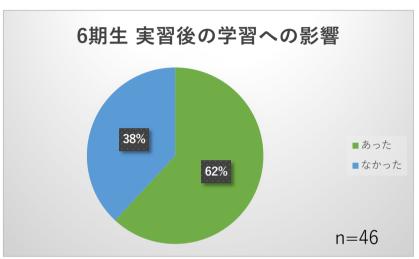
- 自分が何をしたのか、という 印象…自分主体
- 認知症高齢者との初めての関わり
- 認知症高齢者とのコミュニケーションの困難さ
- 施設での生活を知る
- 障がい者とのふれあい
- 対象者の反応から自分達が提供したことの効果を喜ぶ

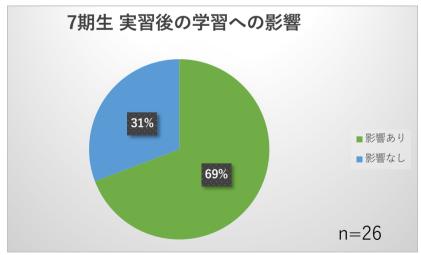
#### サロン

- 高齢者のイメージが変わる
- ・生き生きと元気に暮らす高齢 者
- ・健康に暮らす高齢者の生活する姿を実感した
- 地域が好きであるという姿
- 地域で協力して支え合う姿

### Q6. その後の学習や実習への影響







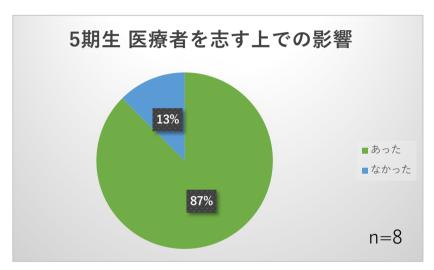
#### 学習や実習にどのような影響があったか

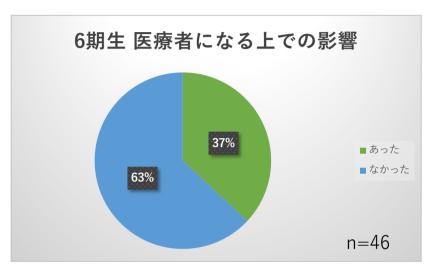
- 病院での実習が始まる前にコミュニケーションなど学べたことが実習でも役に立った。まったくはじめての実習が病院というわけではなく、ふれあい実習のように地域での実習だったことで、その後、安心して実習に臨むことができた。
- 自分とは全く違う環境で過ごされている方々に会い、自分の中の「普通」という範囲がなくなった。自分の生活にあてはめるのではなく、相手の生活を知ろうとすることができた。
- 高齢者の身体機能の評価の一つの指標になった。
- サロンでのレクリエーションを考えるにあたって、高齢者の方がどのような事までならできるかを考えながらレクを構成したが、実際は自分達が思っている以上にサロンの方々と活発に関わることができた。この経験から、自分が考える高齢者像と実際では違うことを学び、実習でも目で実際に人を見ることが重要であることを踏まえて取り組むことができた。
- グループワークがどのようなものかや、メンバーがどんな性格で、どのような立ち位置に回る人なのか知れたため、その後のグループワークがやりやすかった。
- メンバー間の仲も良くなり、支え合える人は増えたと思う。
- グループワーク時の自分の立ち位置、役割もなんとなくわかったので、それも役に立った。

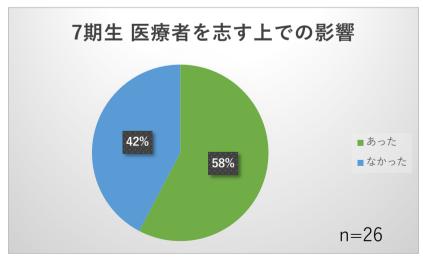
### Q6から見えてきたこと

- 本格的な実習前にコミュニケーションについて学ぶ機会となった。
- 自分にとっての「普通」が対象者と同じではない。
- 高齢者のイメージが具体的になったことがその後の学習に影響 した。
- メンバーで協力して取り組んだ達成感が、グループワークの意味に気づくきっかけになった。
- 入学後すぐの活動であるため、親しくなるきっかけになり、その後の学生生活への導入をスムーズにした。

### Q7. 医療者を志す上での影響







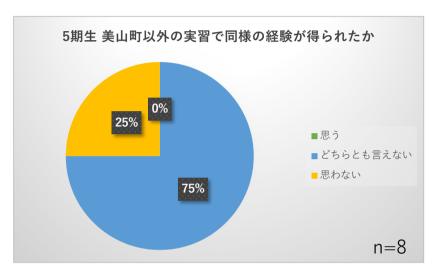
### 医療者になる上でどのような影響があったか

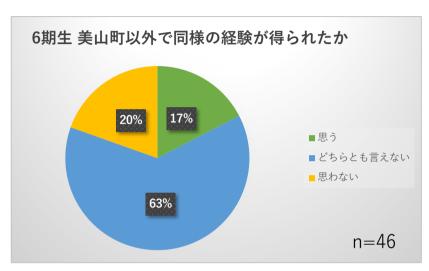
- 高齢者や傷病者には、「何かしてあげなければあらない」とか、「助けが必要だ」と考えていたが、様々な環境で自立して暮らしている方々を見て、その人達が持つ力を最大限に活かせることが大事だと学んだ。
- ただ、地域の高齢者とお話しをするだけなら誰でもできますが、看護学科の学生として施設の方や、サロンの方に扱われることで、医療者の卵なのだという自覚が芽生えた。
- 医療を提供する上でその人の生活やその人らしさがあり、それを尊重していくことが大切なのだと気づくことができた。
- 地域で暮らす人々はどういう生活をしているのか、山間部の医療はどのような状況なのかを知ることができた。
- 入学してすぐの自分にとって、看護におけるコミュニケーションは何かを知ることができた。また、生活背景や地域の特性も含めて看護に生かすことの大切さを学ぶことができた。

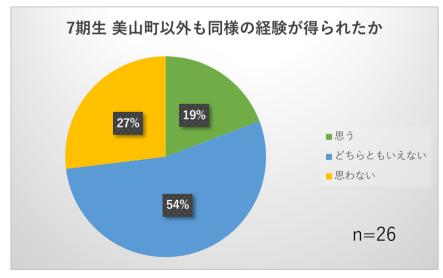
### Q7から見えてきたこと

- 対象者は何かをしてあげなければならない存在ではなく、自立のために援助することが看護者の役割
- 生活者として捉えることの重要性
- 生活環境も含めて人を捉えることの重要性
- 医療を提供する上で、その人らしさを尊重することが大事
- 看護師の卵として扱われることで、医療者になるという自覚が 芽生えた
- 看護にとってのコミュニケーションの意義の気づき

### Q8. 美山町以外でも同様の経験が得られたか?







### 得られたと思う

- ・京都市内の施設でも様々な高齢者と話し、各自のコミュニケーションスキルの課題を見つけることができると思うから。
- 老年看護実習で活かせるような場所へ行くべきだと思う。
- グループホーム、デイサービスの施設の方が、今後の学習に役立つと思った。
- その土地のことを知ろうとする姿勢や、人とのコミュニケーションを しっかり取ろうとする姿勢があれば経験は得られると思う。
- 普段関わらないような高齢者や知らない環境を知ることで必ず学びは得られるし、同じとは限らないけれど、良い経験になると思うから。

### どちらとも言えない

- 美山町では施設やサロンだけでなく、美山町での生活なども含めて学習したため、全く同じ経験はできないと思う。ただ、施設やサロンでのふれあいに関しては、京都市内など他の施設でも似た経験が得られるのではないかと思う。
- 美山は比較的元気な高齢者が多く、自身でまだ農業を営んでおられた方もおられたため、最初の実習には良いと感じた。
- 一方で、京都市内の施設に実習で行った場合、身体機能が低下した方が多くおられる。その中で、どのようにすると身体機能の低下を防ぐことができるのかということを考えさせられる実習になると考えた。そのためふれあい実習の目的とは離れた実習になると考えたため。
- 同じかは分かりませんが、それぞれの施設で学べることがあると思った。 人を生活者として理解するという部分では他の地域、施設でも良いと思ったため。
- 施設でもコミュニケーションはとれたと思うが、美山という高齢者が多く、 生活環境も都市部の方とは違う場所で学ぶことで、そこに住む方達のこと を知ることができ、自分の視野が拡がった思うから。

### 思わない

- 暮らしの形態が全く同じとは言えないので、同じ経験を得られるとは言い切れないです。しかし違う形でもその中から学べることは必ずあると思います。
- 京都市内と美山町では、生活スタイルが異なると考えるから。
- 美山ならではの地域の特性や習慣があるあるため、別の施設でふれあい実習を行ったらまた違う学びになっていたと思う。
- 市内でなく、医療機関も十分にあるわけではない美山の生活は、 美山にいかなければわからないから。
- 過疎化や高齢化が進行している地域であったことから、生活上の 困難やリスク、反対によいところについて考えることができた。

#### Q8から見えてきたこと

- 京都市内の施設でも様々な高齢者と話し、各自のコミュニケーションスキルの課題を見つけることができる
  →実習の目標を十分理解できていない学生は、コミュニケーション実習として捉えている
- その土地のことを知ろうとする姿勢や、人とのコミュニケーションをしっかり取ろうとする姿勢があれば経験は得られる
- 美山町では施設やサロンだけでなく、美山町での生活なども含めて学習したため、全く同じ経験はできないと思う。ただ、施設やサロンでのふれあいに関しては、京都市内など他の施設でも似た経験が得られるのではないかと思う。
- 美山ならではの地域の特性や習慣があるあるため、別の施設で ふれあい実習を行ったらまた違う学びになっていたと思う
- 医療機関も十分にあるわけではない美山の生活は、美山にいか なければわからないから